

令和 8 年度葛飾ブランド PR 冊子漫画ストーリー

【冒頭】

薄暗い工場の中、一枚のミラーが光を宿した。健二は無言でそれを見つめる。

「……できた。」

【回想へ】

数ヶ月前。付き合いのある商社の担当者が図面を一枚持って現れた。「クライアントは言えません。ただ——これができる会社が、日本にないんです。」

図面を見た健二は眉をひそめた。裏面だけに金メッキを施す。表面は鏡面のまま、傷ひとつ許されない。

「メッキってのは、全体に均一にかけるもんだ。片面だけって、どうやって——」

何度試しても膜厚がばらつく。夜、工場に一人残り、スツールに座ったまま動けなくなった夜があった。

ふと目に入った、壁に貼られた先代の走り書き。「できないメッキはない。できないと思った瞬間に負けた。」

健二は立ち上がった。

【現在へ戻る】

冒頭と同じミラー。同じ光。でも今度は健二の目に、静かな確信がある。

このミラーが、地上に宇宙をつくり出す。